

エコヘルス研究会開催記録（第12回～）

	発表者/発表タイトル
第28回(2009.5.27)	嶋田雅暁(長崎大学熱帯医学研究所教授・ケニアプロジェクト拠点長) 「長崎大学ケニア拠点があって初めてできること」
第27回(2009.5.16)	1)周 瓊(雲南大学西南古籍研究所) 「雲南における「瘴」の変遷について」 2)蔡 国喜(地球研エコヘルス・プロジェクト 研究員) 「中国=ラオス国境における中国人国際流動人口の社会属性」
第26回(2009.5.12)	沢田誠二(元ラオス教育省専門家・京都教育大学名誉教授) 「ラオスの教育について」
第25回(2009.4.16)	1)工位夏子(大阪大学大学院人間科学研究科 修士課程/アゲンスト・マラリア 基金ワールド・スイム・アゲンスト・マラリア日本事務局 コーディネーター) 「ワールド・スイム・アゲンスト・マラリアー泳ぐことで救える命がある」 2)虫明悦生(京都大学東南アジア研究所 研究員) 「ラオスの即興的語り歌「ラム」とは何かーその真髄と地域研究・実践的活動等 への応用可能性を探る」
第24回(2009.3.31)	広田勲(京都大学大学院農学研究科 博士課程) 「ラオス北部山地部の焼畑村における森林景観の形成」
第23回(2009.3.27)	Kazi M. Jamil(ICDDR, B) “Response to treatment with sodium gluconate (SAG) for visceral leishmaniasis in Bangladesh”
第22回(2009.3.27)	1) Phonphadit Xangsayalath (NIOPH/長崎大学) “Positive diversifying selection on Plasmodium falciparum SURFIN4.1” 2) Laddavanh Sengdara (MOH, Lao PDR) “Health Insurance in Lao PDR”
第21回(2009.3.12)	浅井英利(京都大学大学院農学研究科 博士課程) 「作物生産と炭素循環からみたラオス焼畑農業の現状とその将来」

<p>第 20 回 (2009.2.27)</p>	<p>1) 大西秀之(同志社女子大学現代社会学部・准教授) 「ラオス南部一村落における身体の近代化－生計活動に伴うエネルギーフローとキャッシュフロー」</p> <p>2) 辻貴志(地球研エコヘルス・プロジェクト 研究員) 「生業活動の通年データ収集のための非常駐型調査票システムの構築－ラオス南部での導入と課題」</p> <p>3) 東城文柄(地球研エコヘルス・プロジェクト 研究員) 「ラオスにおける DSS のペーパーレス化に向けて－ラオス語版 PDA・DSS システムの開発作業の経過報告」</p> <p>4) 吉田香世子(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 博士課程) 「生命の迎え方・養い方－北ラオス村落社会における出産と子育て」</p>
<p>第 19 回 (2009.2.9)</p>	<p>金子聡(長崎大学熱帯医学研究所ケニア・ナイロビ研究拠点 教授) 「地球規模課題である『熱帯病』制圧のための熱帯病流行地域における大規模情報システム整備に関する研究－5 万人登録追跡システムの紹介」</p>
<p>第 18 回 (2009.1.30)</p>	<p>1) 張孔来(中国協和医科大学 教授) “HIV/AIDS and related social factors in China”</p> <p>2) Alexander Bay (Assistant Professor, Chapman University) “Epidemiology in the Post-Russo-Japanese War: The Nation, Disease and Empire”</p>
<p>第 17 回 (2008.12.19)</p>	<p>横山智(熊本大学文学部／生態史研究会幹事)・門司和彦(地球研) 「生態史研究会の活動戦略－来年度の予定・プロジェクト計画他」</p>
<p>第 16 回 (2008.12.4)</p>	<p>矢島綾(東京大学)・友川幸(広島大学)・辻貴志(地球研) 「ラオスにおけるタイ肝吸虫感染に関する実用的な予防対策プログラムの開発－タイ肝吸虫メタセルカリア同定技術の習得を目的としたタイマヒドン大学での研修報告」</p>
<p>第 15 回 (2008.11.24)</p>	<p>大塚裕之(モンベル大阪本社) 「メコン川流域の氾濫原における仔稚魚の成育場に関する研究」</p>
<p>第 14 回 (2008.9.26)</p>	<p>1) ASG. FARUQUE (ICDDR, B) “Changing patterns of Shigella species, and their antimicrobial susceptibility in urban Bangladesh”</p> <p>2) Nick Mascie-Taylor (Cambridge University) “Maternal and Child Health and Nutrition in Bangladesh”</p>

<p>第 13 回 (2008.7.14)</p>	<p>1) 友川幸 (広島大学大学院国際協力研究科 日本学術振興会特別研究員) 「ラハナム地区の魚生食とタイ肝吸虫感染:健康教育の基礎情報収集」</p> <p>2) 徳安祐子 (九州大学大学院人間環境学府 博士課程) 「「豊かな森」ーラオス山地民カタンの人々と森」</p>
<p>第 12 回 (2008.6.9)</p>	<p>須田一弘 (北海学園大学人文学部 教授) 「開発と自然ー社会環境変化に対する移民・流動人口・難民の生活適応と環境影響」</p>